

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について：「説話の語文」補正

春日，和男

<https://doi.org/10.15017/2332720>

出版情報：文學研究. 74, pp.7-51, 1977-03-30. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：



関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について

—「説話の語文」補正—

春 日 和 男

関戸家蔵三宝絵詞東大寺切に関して、筆者は両度にわたって活字翻刻を試みた。それらは、九州大学文学部創立四十周年記念論文集（昭和四十一年一月）および、小著「説話の論文古代説話文の研究」（昭和五十年十一月）にそれぞれ掲載したものであるが、何分短時日の間に急遽書写したものを原拠としたため、「将来を期して精密なものにした」といふことで、なほ問題点を残してあった。

もともと、東大寺切のやうな、書入れや補入、抹刷の多い原典を活字印刷の上に、精密に復元しようとすることは、技術面からかなりの困難をともしふことはもちろんであって、完全なる複製はどうしても写真版の上に待たねばならない。しかし、今はとりあへず、重要な部分について補正をほどこし、「東大寺切語句索引」作成のための本文定本としておきたい。幸い筆者も昨年来、関戸家本の写真撮影を許可され、その殆どを手中に収めることができたので、その原板をもとに、もう一度本文の修正を行ふことにした。補正に際しては筑波大学教授馬淵和夫博士の特別な御援助によって、正誤表を与へられたことを記し、今は手元の写真をもとに、補正事項を脚注*として、かつ本文を可及的正確に訂正することにした。その大綱は既に「説話の語文」の中で明かにした線に副って表記して行くが、とりあへず特殊字体対照表と傍訓補筆用字体表を掲げる。その要領は次のごとくである。

一、特殊な草、平仮名書体は、概ね前項に表示した基準に従って、その原漢字体を用ゐる。但し傍訓、書き入れ等に

傍訓補筆用字体表

ア	ア	あ	イ	イ	い	ウ	ウ	エ	エ	オ	オ
カ	カ		キ	キ		ク	ク	ケ	ケ	コ	コ
サ	サ	サ	シ	シ	レ	ス	ス	セ	セ	ソ	ソ
タ	タ	タ	チ	チ	チ	ツ	ツ	テ	テ	ト	ト
ナ	ナ	な	ニ	ニ		ヌ	ヌ	ネ	ネ	ノ	ノ
ハ	ハ	は	ヒ	ヒ		フ	フ	ヘ	ヘ	ホ	ホ
マ	マ	マ	ミ	ミ	ミ	ム	ム	メ	メ	モ	モ
ヤ	ヤ					ユ	ユ	エ	エ	ヨ	ヨ
ラ	ラ	ら	リ	リ		ル	ル	レ	レ	ロ	ロ
ワ	ワ		ヰ	ヰ				エ	エ	ヲ	ヲ
ン	ン	ん				疊字	ニ	重点	ノ		

傍訓補筆における読み仮名、返点等は本文印刷上の都合により多く省略した。それ等は「関戸家蔵冊子による本文と用字」(説話の語文)の説明によって諒解されたい。

一才 (中序)

1 三宝絵

2 釈迦能ミのり正覺那り堂ま悲し日より

3 涅槃爾い堂里たまふ夜爾い多るまでと支

4 給へる登ころ乃もろくのことの悲と徒

5 もまこと那らぬなし者し免花と

6 むをと支て菩薩さと爾ら志めたまふ。日コト

7 能いて、ま川堂閑支みね越てら春

一ウ

1 閑ことし徒支爾阿こむをのへて

2 声聞爾志ら志め堂まふしか久してコト日ノタカクシテ

3 やうや久布か支た爾越てら春可こと

4 志又登ころくにして者うとうふのくきく * *

5 の経をあらは春に仏者ひとこゑルで、

6 と支たまへとも衆生は志那く爾し *

7 たかひてさとりをうる事なれば タリヒニ

二才

1 あ免は悲と徒あちはひ爾所、介とも

2 久さ支は多ね爾し堂かひてうるほひ

3 をう流閑ことし一十六ゑのなか爾はレ

4 若む那しきさとりを。へ四十志よ年の

5 、地法花経能たへ那るみちをひら支

6 給へり和しのみねにおもひあら者れ

7 川の者やし爾こゑ多え爾し

二ウ

1 より閑せふこ登は越可ねのこゑ爾

2 徒たへあなん身越閑きあ那より

3 いれて徒悲に千人のら可んをえらひ

4 登、めて春へて一たいの正けふを

5 志るしお介り所れより能ち廿よ人

6 ひしりう希徒多へ十六人大こ久王ひ

7 ろめ万もり支尺所む者かくれ多方へ

三才

- 1 れともけう法ハ登、萬れはくすり
- 2 をと、めて久春しの和閑礼ぬるに
- 3 お那し多れ可本那うのやまひをの
- 4 そかさらん多まをか希てと毛可らの *
- 5 さりぬる爾、多り徒ゐ(ひ)に無明のゑ
- 6 悲をさま春へしそもく天ち久爾(は)
- 7 ほと介のあらはれて登支多まひし

三才

- 1 さ閑シレタレひ震丹者のりの川たはれて日
- 2 ろ万れる久爾なりこの布堂ところを
- 3 支久に仏のみのりやうや久あはて
- 4 に多るへしもろこしの貞観チヤツ三年
- 5 爾クエンヤウ玄奘三藏の天ち久爾ゆ支免久り
- 6 志ときに雞足ケイツクの山ふる見ち爾はた *
- 7 け志希りて人もかよは春給孤キフコトツ独

四才

- 1 藺のむ閑しの爾は、むろもうせて
- 2 所うも春まさり希り万かたこ久爾由
- 3 支て本たい春院をミレはむ閑しのこ
- 4 久わうの徒久れる観音のさうありみは
- 5 み那徒ちの所こにいりて閑堂よりかミ
- 6 わ徒閑爾いて堂り仏法うせをはらん爾
- 7 こ能さうい里は徒へし登い悲けり

四才

- 1 又もろこし爾ヒシリオホクミデサカエタレトモシハくミタル、トキア
リ□□ヨニオホキニ。魔能風をあふ支て万さ
- 2 にのりの登もしひを介多むとせし
- 3 閑はあいせし能よを可な志ひし身越
- 4 うら身ていのちを春てをむほうしの
- 5 ミちを、志みしは王耳カイクワウむかひて徒ミ
- 6 を論志支閑王能原ころ本ひ爾閑かねて
- 7 悲ろまり大介ふのよに万堂おとろへ

五才

- 1 志可はおにな支神な介支山なりう
- 2 ミき和支、又^{クワイシヤウノテイシ}会昌天子おほ久経論をや支
- 3 志閑は宮のうちの久卿^{キヤウ}はかうへを堂礼
- 4 て那希支かとの万への官人はなむた
- 5 をな閑してかなしひ支^ヒかの貞観^{チヤウ}
- 6 よりこの閑堂三百六十よ年へたて徒礼
- 7 者天ち久をおもひやるに観音能さうい

五ウ

- 1 りや者てぬらん会昌よりのち一百四十
- 2 よ年爾およひぬれは^{タイタウ}大唐をおし者か
- 3 流に法門能あと春く那久や那りぬらんあ
- 4 那堂ふと仏法悲む閑しにな可れてさ
- 5 かりに和閑久爾、登、まれりあとをた
- 6 れ多る悲しりむ可しおほくあらはれ
- 7 道越ひろめ多万ふ支みいま爾あひ徒

六才

- 1 支た万へり十方にあひ閑堂具無らう
- 2 こふ爾支、かた支大所う経てんをこ、に
- 3 志て支、みることのこれおほろ介の衣む
- 4 爾あら春能りのこゑは登久の徒、ミの
- 5 ことしひとたひき久爾无明のあ堂越
- 6 ころす経能那は久春りのうゑ支爾
- 7 お那し和川閑爾かたらふ爾輪廻能や万

六ウ

- 1 ひをころ^{スッ}春雪山登うしは半介をもと
- 2 めていのちを春て佐い所う仙人者一け
- 3 をね閑ひて身をやふる常啼^{タイ}はひむ
- 4 かし爾こひ善財者み那み爾もとめやく
- 5 王は飛ちをや支ふ明はかうへを春徒
- 6 てむ登志支たとひ一日に見多ひこ
- 7 うさの可須爾身を須徒ともな本仏

七才

法の一句能おもむを堂にむくゆるこ登

2 あ多はしむかしゆかの志た爾て経

3 越支、志いぬはさ恵こ久にむ万れて

4 悲しり爾なりはやし能なか爾して *

5 能りを支、志とりはたうり天ニむまれ

6 てたの志みをう介支とり介多もの

7 春ら閑久のことしいはむや人の徒、

七ウ

1 志みて支可んをや閑那し支可那めち

2 登の、ちさう法能ころほ悲爾い多りて

3 もろこし爾は^{カン}漢の、よ爾い^{たウライフ}多りて明帝

4 能登支にはしめて天ち久より徒多

5 はり我久爾、は支むめい天王(皇)のよにお

6 所久者くさい国より支堂れり和礼い万た那

7 心をあ者せてのりの堂へ那る事を

八才 (申序―中一上宮太子伝)

1 あらは春

2 無閑し上宮太子登まう春ひしりい万

3 須用^ス明天皇の者しめ志^の親王爾い万せし

4 登支^{止支}。穴^{アナ}太^オ部の間^マ人能^{マウ}皇^ト上^上女者ら爾むま

5 せ給へるみこ^奈ありは^志らめは、の夫人

6 能ゆめ爾金志支のそうありてい者久

7 我よを須久ふ願ありね可はくは志者^ヲ

八ウ

1 御者ら爾や登らん我ハ久せ観音なり

2 いへ西方爾あり登いひてをとりて久ち爾

3 いりぬと見て者らまれ給へり太子

4 能御をち^{ヒン}敏^{タツ}達天皇あ免の志堂をさめ

5 多まふ者しめのとし能正月一日爾夫人

6 宮のうちをめ久りてむ万やのもと爾

7 い多るほと爾おほ衣須してむまれ

九才

- 1 多万へりおもと人い多支て志む殿爾い
- 2 爾、和(は)閑爾あ可支ひ可り西方より支
- 3 堂りている御身者那者多かう者し
- 4 四月能、ちよ久もの、多まふあくるとし
- 5 能二月十五日。のあし多よりこゝろ徒可ら多那心をあ
- 6 者せてひむ閑しにむ可ひて南无仏
- 7 登の堂まひてを可み給六さい爾なり^た

九ウ

- 1 た万ふニは久さいこ久より者しめては
- 2 うしあま支堂りて経論をもて和堂
- 3 れり太子所うし多まふもて和堂り多る
- 4 経論を見む登かうろ爾火を多支て悲
- 5 ら支みることをはりて所う春月の八日十四〔目〕
- 6 十五日廿三日廿九日卅日これをは六さいと須この
- 7 悲ははむ王多いさ久。クタリテクにの力徒り事を

一〇才

- 1 見るせさうを登、むへしと万うし
敏生
- 2 給みかところ悲多まひてあめの志た
- 3 にみことのりを久多してこ能日ミは
- 4 せさうをやむ。ト、メレメクマヘリ八年能ふゆ志らより仏
新
- 5 像をたてま徒れり太子まうし多まふ
- 6 西こ久の悲しり尺迦無爾仏のさう那
- 7 りと百さいこ久より日らとい布人き堂れり

一〇ウ

- 1 身爾悲閑りあり太子み所か爾和ろ支
- 2 、ぬを支てもろく能和らはへ爾まし
- 3 りて難波の多ち爾伊里てみる日ら
- 4 太子を見てあやし布太子おとろ支
- 5 てさる日ら徒ち爾ひさま徒支てた那
- 6 心をあはせてい者く敬礼救世観世音
キヤウ
- 7 菩薩^{サツ}伍^{トウ}統^{トウ}東方^{ホウ}栗^リ散^{サン}王登まう眷はと爾

一一オ

- 1 日らおほ支爾身の悲閑りをはな徒太
- 2 子い(ハ)萬堂まゆのあ悲多よりひかりをハ
- 3 那ち多まふ又布堂百済国ヨリら久より見ろ久ほ
- 4 さちのいしのさうもて和堂れり
- 5 大臣所かの馬子能春くねこのさう、け
- 6 ていへの東爾てらを徒くりて春恵た
- 7 天ま徒りてうやまふ。テあま三人を春恵

一一ウ

- 1 てや志那ふ大臣このてら爾塔を多徒
- 2 太子の堂まふ塔は仏さりのう徒わ(は)もの
- 3 なりさか如らい能御さりの徒可ら
- 4 き多り那む登。ノタマフヲ大臣キ、テいのる爾いもひのいひの
- 5 うへ爾仏さり一粒をえ多り流りの徒
- 6 ほ爾いれて塔におきてらい者い春太子
- 7 と大臣と心を悲と徒爾志て三ほうを

一二オ

- 1 ひろむこのと支爾久爾のうち爾やま
- 2 悲おこりて志ぬる人おほ閑り大連レン
- 3 物部弓削モノノヘノユケ乃守屋モリヤと中臣トムの勝海カツウミと、も爾
- 4 所うしてまうさ久我久爾もとより神
- 5 越たう(ふ)とみあ可む志可る爾所可の大臣
- 6 仏の、りとい布ものをおこしておこ那
- 7 ふこれ爾よりてやまひ。ヨミおこりてたみ

一二ウ

- 1 ミ那しぬへし仏法と、めてのみ那むヲ
- 2 人のい(の)ちはのこるへきと所う春みて
- 3 登のり爾い者久万う春ところあ支ら介志
- 4 者や久仏法を堂ちてよとの給太子ま
- 5 うし堂まふ布多りの人はいま多因果
- 6 乃理を志らぬなりよ支ことおこ那へは
- 7 佐い盤ひき多るあし支ことをおこ那へ

一三才

- 1 は和きはひきたるこの二人はいま可那
- 2 ら春わき盤ひにあ悲なんと所うし
- 3 多まへともせしありてもり。の大連^ヤを
- 4 てら爾徒可はして堂塔こほち本と
- 5 介経をや久や介のこれる仏をはな者の
- 6 ほりえ爾須徒三人のあまをはせめう、
- 7 ちてお悲いた春スナハチこの日久^{リヒカリ}もな久して

一三ウ

- 1 おほ支爾風ふ支あ免布る太子和さは
- 2 悲へい方おこりぬとのたまふこの、ち可^させのやま
- 3 ひよ爾おこりてやみい多むことや支さく
- 4 かことし二人大臣こと爾おもくやむ登か
- 5 を久いて所うし申春臣らやまひの
- 6 久るし久い多きこと堂へ閑多しね可
- 7 は久は三法爾いのらんと又^{チヨッ}勅ありて三人

一四才

- 1 のあまをめして二人の臣に給てい能
- 2 ら志め又あら多めて、らを徒久ら志む
- 3 堂^{ルゴ、ロアリ}えうせ爾し仏法これよりおこる太
- 4 子能御ち、ようめい天王(皇)久らゐ爾徒支
- 5 たまひぬ二年ありての多まふ我三法 *
- 6 爾帰衣しなんと思所可の大臣おほせ
- 7 こと爾志堂可はんと所うして本うしを

一四ウ

- 1 免して堂^いり爾いる太子よろこひ給^天
- 2 大臣能てをとりたまひてなん堂越たれ
- 3 て能多まは久三法能多へ那ることを人の
- 4 いま堂しらぬ爾大臣心をよせ多りうれ
- 5 志久もある可那この、ちある人ミそか
- 6 爾もりやの大連爾徒希てい盤久人ノハ
- 7 閑りことな春めり徒者もの万う介よと

一五才

- 1 伊へはこれを支ゝて阿都いへにこもりあとの
- 2 ゐて徒者ものをまう久中臣能勝海乃
- 3 連万堂徒者ものをおこしてもりやのムラシ
- 4 大連をあひ堂春介むと須又み可とを
- 5 咒咀志たてま徒るときこえな(あ)りて所
- 6 閑の大臣太子爾万うしてい久さをひ支
- 7 ゐてもりやの大連をう徒もりや徒者

一五ウ

- 1 物をおこして城を徒支てふせ支多、か
- 2 ふ所のい久さは久さ閑なりミかたの
- 3 伊具さおちお(を)の、支てみたひ志り所支
- 4 うつるこのと支爾太子御登し十六なり
- 5 將軍シヤウケンの志里へ爾堂ち多万へりい久さのカハカツ
- 6 ま徒りこと人はたの川勝爾志めして白木ヒヤクモク
- 7 越登りて四天王のさう爾ささみ徒久

一六才

- 1 ら志めてもと、りのうへ爾さし本この
- 2 さ支爾さ、介て願をおこしての、多まは
- 3 具我らをして多、か悲爾閑多せ多まへ
- 4 らは四天王をあらはし塔て、らを堂て
- 5 ゐと大臣もか久のこと久願志てい久さを
- 6 須、めて多、可ふ爾物部能守屋の大
- 7 連おは支那るいちひのき爾の本りてち

一六ウ

- 1 か悲てもの、へのうちの大神をいのり
- 2 てやを者那徒太子能御あふミ爾あ堂本文支人達見常格ニ重ヒテ四天皇ノ像ニ形デヤヲハサウトヲ(ホクシリヲモリヤカムホニアクリヌ
- 3 れり佐可さま爾支よりおちぬ所のい
- 4 久さミ多れやふれぬせ免ゆ支てもりや
- 5 か、志らをきり徒いへのうち多可らさ
- 6 う所のをはみ那てらのものと那し多ま
- 7 徒久りの支しのうへ爾者しめて四天

一七オ

- 1 王寺を多徒これより仏法いよく閑り
- 2 になりぬ太子ノ御をち崇俊天王(皇)久らる爾ハス
- 3 徒支給ぬこ能御よ爾太子十九にして
- 4 閑う布り志多まふ又太子能御をち推著
- 5 古天王(皇)くらる爾徒支たまへり久爾のま徒
- 6 りことをみ那太子爾徒希多てま徒り多
- 7 まふ者久さいこ久の徒可ひ爾て阿佐たきといふ

一七ウ

- 1 王子き堂れり太子を、閑み堂てま
- 2 徒りてまうさく敬礼救世大慈觀世音菩
- 3 薩妙教流通東方日本國四十九歳ケウルツ伝燈演テントウエン
- 4 説登まう須太子まゆのあひ堂より
- 5 悲と徒能志ろ支悲閑りを者那ち多万
- 6 ふ太子か悲の久爾より多てま徒れる久ろ
- 7 きこまのよ徒のあし、ろ支にのりて

一八オ

- 1 久も爾いりて日むかし爾さりぬ徒可調使丸ひ
- 2 むまのみ支爾そへり人くあふ支てみる
- 3 志那能、久爾、い多りぬ又。三こし能さか
- 4 る(ひ)越めくりて三日ありて返たまひぬ
- 5 太子須い(る)こ天王(皇)のおまへ爾志てかうさ
- 6 爾能本りて勝鬘經を閑うし多まふも
- 7 ろく能名僧をして支をとほしむる

一八ウ

- 1 爾登支こ堂布る事堂へなり三日かう
- 2 志お(を)者れる夜天より者ち春の花布れり
- 3 花の悲ろさ三尺徒ち三四丈爾三てりあ
- 4 くるあし堂爾み可と見多まふ所の地爾
- 5 てらを多徒いまの堂ちは那てら那り
- 6 ふれる花いま爾このてら爾あり又太子を
- 7 の、いもこ越川か悲と志てさ支の身にも

一九オ

- 1 ろこしの衡山カウ爾ありて堂もてりし法
- 2 花經をとり爾徒かは春をしへて能堂
- 3 まは久赤セキクエン能南爾衡山あり山能うち
- 4 爾般若寺あり我むかしの登う本う
- 5 者み那須テ爾志爾介む多、三人あらん
- 6 我徒可ひ登なのりて所て爾須みしと
- 7 支爾太もてりし法花經のあ者せて

一九ウ

- 1 悲とま支爾せるあらんこ悲てもて支
- 2 堂れ登の多まふいもこ和堂りゆ支て
- 3 をしへ爾志堂かひてい多りぬ可と爾悲
- 4 登りの沙門ありてみて春那者ちいりて
- 5 思念禅比丘法師能徒可ひ支多れりと徒久那
- 6 礼者おい堂る僧三人徒恵を徒支てい徒
- 7 よろこ悲ゑみて徒可ひ爾をしへて

二〇オ

- 1 經を登良志め徒春那者ちもて支多
- 2 礼り太子斑鳩イカルカ能宮能寢殿シムテンの開堂者
- 3 ら爾やを徒久りてゆめとのと那徒久一
- 4 月にみ堂日ゆめをみているあ久るあ志
- 5 堂爾い〔伊〕て、衣布堂いのことを閑多る
- 6 又このうち爾いりてもろくの經の所を
- 7 徒久り多まふある堂悲ハ七日七夜いて

二〇ウ

- 1 多まはてとを登ちておとも志多まは
- 2 須高麗カウライノエン恵慈法師能い者具太子三万い定
- 3 爾いり堂まへりお登る閑し堂てま徒
- 4 らされと八日とい布日いて多まへり堂ま
- 5 の徒久恵のうへ爾一卷の經オトロキナあり恵慈法師を
- 6 めして閑堂りての多まは久我さ支の身
- 7 衡山爾ありしと支爾多もて里し万

二一オ

- 1 ここの経盤これなりい爾し年いもこかもて
- 2 き多りしは我てしの経なり三人おいた
- 3 る所う能我をさめしところを志ら春
- 4 志てこと経をおくれし閑は我多ま志
- 5 ひをやりてとらせ徒るなり登のたまふ
- 6 見あは須る爾閑れ爾はな支字ひと徒あ
- 7 りこの堂ひの経も一卷爾閑介り支なる

二一ウ

- 1 閑み爾て玉のち久あり又百済国より僧
- 2 道^{取上}閑ら十人支堂りて徒可ま徒るさきの
- 3 よ爾衡山爾志て法花経をと支多まひし
- 4 と支我らは盧^{ロカク}岳の道士^シ登志てと支／＼
- 5 まうてゝきゝ志人／＼なり登まう須のち
- 6 のとしをのゝいもこ万堂もろこし爾
- 7 和多れり衡山爾ゆ支堂れはさきの所

二二オ

- 1 う一人のこれりか堂らひてい者久こ所の
- 2 火^ナなむちか久爾の太子^念もとは思禪師青
- 3 竜の久ろむま爾のりて五百の人を志多
- 4 閑へて東方より所らを布みてき多
- 5 りてふる支むる爾い里てき久りて一
- 6 巻の経をとりて久毛を志の支てさき爾
- 7 き登いふあ支らか爾志りぬかのゆめとの

二二ウ

- 1 爾伊里多まへり志ほとのこと那り介り太
- 2 子^如御ひかしはてのうち閑堂者ら爾さふ
- 3 らふ太子閑堂らひ多まふ支み我心のこと志
- 4 悲登徒^いのことも堂可は春さいはひなり
- 5 われ志那む日はあ那をお那し久志て
- 6 ともにう徒むへしとひこ多へてまう須
- 7 千、乃あ支よる徒の登しあしたゆふ

二三才

- 1 へ徒かう万徒らんとこ所おもへな爾心あ
- 2 りてか希ふはをはりのことをはのた万
- 3 ふと太子こ堂へ多まふ者しめあるは
- 4 をはりありものゝさ堂まれる理なり
- 5 悲登多ひはう万れ悲と多ひは志ぬる人
- 6 能徒ねの道なり我無閑志あま堂の身
- 7 越閑へてほと介の道をおこ那悲徒とめて

二三ウ

- 1 和徒閑爾小国能太子登して堂へ那る議
- 2 を流布志徒のり那きところ爾一乗能教をと
- 3 き徒五濁のあし支よ爾日き志久はあ所
- 4 はん登おもは春との多まふひなん堂を
- 5 堂れてう希多まはる太子難波より京
- 6 爾閑へりたまふ閑堂を可の山の本とり爾
- 7 うゑ多る人ふせり久ろこまあゆま春

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について（春日）

二四才（下十五薬師寺万燈会）

- 1 くはへてあたふ春那盤ち春那盤ち本と介の
- 2 おまへ爾とも春もえむことよ那可まで爾た爾
- 3 たるましをむなち可ひていはくもし我
- 4 のち能よ爾本と介と那るへくはね可は久は
- 5 このあふらつ支春して。ひかり支えされといふは登
ヨモスカラ
- 6 介もくれむ爾つけたまはく天春て爾あ介ぬ
夜
- 7 ともしひを介徒へしともくれむ堂ちても

二四ウ

- 1 ろ／能ともし火をけつ爾わう能ともしひは
- 2 きえぬひ女可ひとつ能ともしひみたひけつ爾
ミナ
- 3 きえ春介さをもちてあふけとも所の光いよ／
- 4 まさるほと介の、多まはくやみね／これの
能
- 5 ちのよ能仏のひ可りなれ盤なむち可ち可らのおよ
ケツヘキトコロニ
- 6 ふへ支爾あら春この女卅こ布をへてはと介爾なら无
- 7 なをは春みとう光といはむとのたまふ女支
如来

二七オ

- 1 つは可いをあ、や、ま、ち、やふりてたとひあくた
- 2 う爾おつれと。戒のち可ら春くれたる爾よりて
- 3 つね爾そのな可能王となるもろ／＼のとも可
- 4 らした可ひるやまひてこゝろ爾しさいを
- 5 え多りこのゆゑ爾もろ／＼能衆生は菩薩の
- 6 さう可いをうくへしさうしのふ可支う見
- 7 をこゆる爾は菩薩戒をふねと須は、那う、能

二七ウ

- 1 者介し支みちを春くるにははさち可いを
- 2 やとりと春とむしのまつ悲つ那介る爾は
- 3 本さ可いをと支徒る支と春鬼^結まのなや万
- 4 しわつらは春を盤那るゝ爾はほさ可いを
- 5 よ支く春りと須とのたまへり本さ可いといふは
- 6 三須さう可いなり一爾はせふりちき可いもろ／＼
期(律儀戒) 惡方ヲ断スル也
- 7 のよ支ことをおこ那ふも(の)なりふたつ爾は

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について(春日)

二八オ (中三行基伝―中四豊服君女)

- 1 靈^{ケレイイキ}異記ら爾見え堂り備後国八代郡
- 2 豊服^{トヨフクノカウ}郷の人豊服妻^肥はらみて宝龜二年
- 3 辛亥十一月十五日能登らのと支爾ひと徒
- 4 能志ゝむらをうめり所のか堂ちあきら
- 5 か那る月のことしをとこもお(を)ん那もおも
- 6 者久よ支事爾あら春と思てを介にいれ
- 7 て山のい志(者)のな可爾か久し須て徒七日

二八ウ

- 1 をへてゆ支てみればかひこのこと久爾ひ
- 2 ら介て女子ありちゝハゝとりてかへりて
- 3 ちを久ゝめてや志那布あまね久支こえ
- 4 てみ那あやし布八月をへて二はか爾
- 5 おほ支爾那りぬ身の堂介三尺五寸お
- 6 の徒可らさとありことは多へ爾して
- 7 聡^{ソウミヤウ}明なり七さいよりさき爾法花經八巻花

二九才

- 1 嚴經八十卷をみ那須志^誦う閑へて徒須^出
- 2 介せむ事をね閑悲てかミを所りてあ
- 3 まと那りぬ道をおこ那ひて人を、志布
- 4 所のこゑ多布登久可那志久志てきく
- 5 もの那む堂越おと春所のかたち人爾
- 6 こと爾志てか久れ堂流登ころれいに多
- 7 かへりたゝわ徒閑爾ゆ者りのみちの

二九ウ

- 1 ミありよの人おろ閑那るものこれをわ
- 2 らひてさる悲し里とい布この久爾のこ
- 3 久分寺の所う又豊前^ブ国宇佐^{ウサ}能大神寺
- 4 能僧ふ多りこのあまをに久みてい者久
- 5 なむちは外道なりとい悲て和らひ那や
- 6 ま須と支爾あや志支^上。人所らより支た
- 7 りて、越もちて布多り能所うを徒

三〇才

- 1 閑むい久は具も那久してとも爾志ぬ
- 2 宝龜七八年能はと爾備前^ヒノ国佐賀郡大^{サカノコホリノ}
- 3 領佐賀^{リヤウ}ノ君^{見ミ}。とい布人安居^{アムコエ}会をまう介て
- 4 大安寺能^ヤ戒明^{カイミヤウ}大徳能筑紫能^{トクツクシ}国の師にて
- 5 あ流をよひて八十花こむ経をかうせし
- 6 むるにこのあま日ミに支多りて座をかゝ
- 7 春志て衆のな可爾あ里天支久かう志

三〇ウ

- 1 これをみて能りは徒可しめていは久
- 2 な爾須るあまかミ堂り閑はし久万
- 3 志りてゐるへ支登いふあまこ多へて
- 4 い者久仏は平等大悲爾いま須ゆへ^る爾い
- 5 さい春上^のを堂め爾正教を流布し多まふ
- 6 那爾のゆゑ爾和支てせいしたまふ所もく
- 7 う堂かひある。登悲^{ことなんある}まうさむとて花

*

三二才

- 1 嚴經のけをい堂してとふかうしこ堂
- 2 布流ことあ堂は春こ能さ爾あるもろく
- 3 能智徳名僧あやし閑りておのく人くトヒ
- 4 心ミ流耳あま一くにこ堂ふる事堂徒
- 5 へ那り悲しりのあとをたれ堂る那り
- 6 介り登さ堂めてな徒介てさり菩薩
- 7 登い布道俗那悲支うやまふこれを化

三一ウ

- 1 主と志てみ那所のをしへ爾志多可ふむかし
- 2 仏よ爾いませしと支爾舎衛城能須達
- 3 長者能む須め蘇蔓かう免りし閑ひ
- 4 こ十枚をとこ十人爾なりてみ那羅漢
- 5 の果越え多り迦毗羅城能長者のめハ
- 6 らみてひと徒の志くむらをうめり七日
- 7 い堂りて志くむら悲ら介て百能童

三二才 (中四―中五衣縫伴造義通)

- 1 子あり一時爾須介志て百人とも爾羅
- 2 漢能果越え堂り閑み可と爾むまれ
- 3 多る志くむらもい爾しへ爾な春らふ
- 4 邊志靈異記爾みえ堂り 恵あり
- 5 小墾田宮ニハヘタあ免能志多をさめ給ミ閑との
- 6 御よ爾衣縫伴造義通コロセヌヒノモツクリキトウといふものあり
- 7 堂ちまちにおも支やまひを衣てふた

三二ウ

- 1 徒のミ、登も爾志ひあ志支可き身
- 2 爾あまね志登しをへていえ須み徒可
- 3 らおも者くこれむ閑し能徒みのまね
- 4 くところなりこのよの事にはあら春と
- 5 那閑具い支て人爾、久まれむよりは
- 6 志可しとくを徒くりて登久志那
- 7 無にはと思て爾はを者支多うを可

三三才

- 1 さりて天義禪師を佐うしてかう須 *
- 2 い(る)をあみて身を支よめて信心をい堂
- 3 志て方広経をよま志むこ、爾せし
- 4 爾申志ていはくいま和可、堂め爾悲とり
- 5 の菩薩能御。な支こゆ 多、志ねか盤くは大徳の
- 6 ちのよをみちひ閑むとおもへといふせ
- 7 しこれを支、ていよ／＼ねむころ爾

三三ウ

(中五―中六播磨国漁翁)

- 1 よろこひてせしをかかねてをかむ爾
ヨカムコノカタミ、コ、ロヨクキコニ、漁翁オホキニヨロコヒテ
- 2 布多徒のみ、とも爾あきぬとを(本)支も
- 3 ち可支もおとろ支あや志ま春とい布こと
- 4 那し人能こころ爾まことニふか介れはの
- 5 りのちからもむ那しからぬ事を志
- 6 りぬ靈異記爾ミ衣堂り
- 7 播磨国飾磨郡濃於寺爾京ノ元興寺
ハリバノクニ ノオ クワンコウシ

三四才

- 1 僧慈応大徳檀越能請をえて安居のあ悲
カンオツ アンコ
- 2 たゐ多り須那者ち法花経を閑う須
- 3 所のてらの和堂り爾春那とるお支那
- 4 あり和閑うよりおい爾およふまていを
- 5 登流事をこと、せ梨ニわ(は)可爾いへ能うち
- 6 能くは能支のなか爾者ひまろひてこ
ふし
- 7 ゑをあ介てさけ悲那支てい者く

三四ウ

- 1 あ徒支本のほ身をせむ。我を多春介よ
人
- 2 登よ者ふ人あ徒まりて須くはむとて
- 3 よ流爾又さ介ひてい者く我爾ち可徒
- 4 くことな可れよらは身や介那むといふ
- 5 志多し支ともからてら爾者しゆ支
- 6 て行者もとめてよひてゐて支多りて
- 7 閑らせしちや、悲さし久ありて

三五オ (中七義覚法師―中八小野朝臣庭鷹)

- 1 能ち爾又心経を春、礼者悲ら介とは
- 2 れ流ことさきのことしこの心般若能
- 3 不思議なる那り登いへり靈異記爾ミ
- 4 衣堂り
- 5 越前の久爾、か、のこ本り爾う閑れ人の
- 6 ことを登りおこ那ふをさありほかの
- 7 久爾よ梨支多れる人あれば所の那を多

三五ウ

- 1 川ね志るしてさふやく爾閑梨徒可ふうテウ
- 2 用を徒介は多ると支爾京のオノアツム人小野朝臣
- 3 庭麻呂登い布ものは所くと那りて
- 4 徒ね爾千手能咒を須し堂もてり
- 5 閑のこ本りめくりい多りて山／＼をとを(ほ)り
- 6 あるくに神護景雲三年歳次乙酉春
- 7 三月廿六日午時爾所のこ本りの御馬河ミマカハ

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について(春日)

三六オ

- 1 里ニして閑のをきこの行者あひて
- 2 なんちはい川れの久爾の人所登、ふ行
- 3 者我者須行者なりよ爾布る人爾も
- 4 あら春登こ堂布をさい閑りてい者く
- 5 なんち可堂ちなを(ほ)所久那りう閑れて
- 6 この久爾、支多れり伊閑てかおはや
- 7 介のおこな布爾志堂可は春志て、うよ

三六ウ

- 1 う。伊堂さ佐流へ支とせめて志者りてうを
- 2 ちおひ徒可ふと支爾行者能い者くきぬの
- 3 志らみも閑しら爾のほれはくろく那る
- 4 閑志らの志らみも支ぬ爾久多れは志ろ
- 5 く那る無しも春む登ころ爾、て所のい
- 6 ろをあらはせは法文たも徒所爾志多
- 7 閑悲て所のち可らをあらは須へきもの

三七才

- 1 なり我^可。うへ爾堂ら爾をい多、きせ那閑
- 2 爾千手經をおへり法能ち可ら爾よりて
- 3 よのわさは悲爾はあはしとおもひ徒る遠
- 4 な爾のゆへ(る)爾か大所う經を堂もてる
- 5 我身の徒みも那くして志者りう堂れ
- 6 て者ちをみる所堂ら爾まこと爾介む
- 7 ましま春へくは多ちまち爾所の志る

三七ウ

- 1 志、めせとい悲てな者もちて千手經
- 2 をか介てさりぬこのところの登をさの
- 3 いへとされること一里は可りなりをさ
- 4 伊邊爾返て閑とのまへ爾て馬よりおる、
- 5 爾徒よく徒支てを(お)りられ春、な者ち
- 6 馬爾能りな可ら所こ爾のほりてゆ具
- 7 行者のう堂れ徒るところ爾い多りて所

三八才

- 1 らの中爾閑、りと、まりて一日一夜を春
- 2 く春までおち春あくる日のむまと支
- 3 爾なりてきのふ行者をうち志と支の
- 4 ほと爾およひて所らよりおちてしぬ
- 5 所の本ねく堂介をれ多ることさんを
- 6 ふくろにいれ多るかことしもう／＼の人これ
- 7 を身てこれを^五おちお所らぬもの那し

三八ウ (中八―中九山城園囲暮沙弥)

- 1 靈異記爾みえ多り
- 2 む閑志やましろのく爾、一人能悲とありて^{沙弥}
- 3 沙弥と、も爾こ越う徒はと爾乞者支多りて^人
- 4 法花經の品をよみて志支、こふさみこれを支、^を
- 5 てわらふさら爾久ちをゆ可めこゑを^{よこたへて経を}万ねひて
- 6 よむ所くこれを支、て子^五をう徒ことは爾
- 7 あ那お所ろし／＼登いふ所久は多ひこと爾可徒

三九才

- 1 さみは堂ひこと爾まくこ、爾さみ須那者ちるな
- 2 から久ちゆ可みぬ久春し具須里をもちて
- 3 徒久ろへともな本ら春法花経爾い者くも
- 4 志かるみわらふものあらはまさ爾、和(は)閑爾く
- 5 ちひるみ者那ひらみてあしも登りゆ可み **
- 6 ぬめ須可女爾、那流へ、志といへり靈異記爾ミ衣
- 7 堂り

三九ウ (中十山城園造経管人)

- 1 聖武天王(皇)の御よ爾やましる久爾さ可らかの
- 2 こ本り爾願をおこしてある人あり姓名い
- 3 ま堂徒者ひら可那ら春四恩をむ久る(い)むか
- 4 多め爾法花経をか支多てま徒りてこの経
- 5 いれたてま徒らんとてはこを徒久らんとおもふ
- 6 白檀たんたん紫檀をもとむる爾さ、から可、の京、よりと
- 7 ふらひ衣多りせ爾百貫志て可悲とり徒さい

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について(春日)

四〇才

- 1 久を春ゑて者こをち(さ)しい多したるに **
- 2 経はな可久はこはミしか久ていれたて万
- 3 徒る爾多へ須檀越おほ支爾な介支て
- 4 又こと支をもとむる爾登布らひえ須心
- 5 をい堂して願をおこ志てあまたの所う
- 6 をさうして三七日を閑支りてこの支とふら
- 7 悲えさせ多まへといのりこふ二七日ありて

四〇ウ

- 1 こ、ろみに経をいれみる爾経なを(は)いらねとも者
- 2 こ春こしの悲多り檀越よろこ悲あや志悲
- 3 てま須／＼布可久徒、志みいのる三七日を須
- 4 久している、爾よ久いり多まひぬ人／＼あや
- 5 志ミう堂可ふもし経能志、まれる可も
- 6 しはこの、ひ堂る閑登て須那者ちも
- 7 との経登りいて、あ堂ら志支経爾久らふ

四一オ (中十一高橋連東人)

- 1 連は閑れもこれも多介ひと志又布多徒の
- 2 経をならへて悲と徒者こ爾い流れはふる
- 3 支はいら須志てあ堂ら志支はいるまさ爾
- 4 志るへし大所う能布志支能ちから願主
- 5 の布可支まこと爾閑那ひ給なり靈異
- 6 記爾志るせり
- 7 堂閑者志のむら志あ徒万人はい可の久

四一ウ

- 1 爾やまたのこほり久悲志ろのさとの人
- 2 なりおほ支爾登みてた閑らゆ堂可那
- 3 り志爾介流盤、能多め爾法花経をか、せ
- 4 堂り久やう志たてま徒らんとてい徒くし
- 5 久たうを可されり法ゑあ春おこ那者む
- 6 登てかうしをもとめ爾やる徒可ひ爾いま
- 7 志めていは久末徒はしめ爾あ者ん人を

四二オ

- 1 我堂め爾縁ある師とせよのりおこ那悲徒
- 2 へ支か堂ぢならはき多らん登春らん(毛)閑
- 3 那ら春さうせよといふ徒可ひい布爾志堂
- 4 可悲てか登をい徒お那し支こ本りの
- 5 さと爾乞者あり者ちと布久る登を日
- 6 ち爾可希てさけ爾ゑ悲て道爾布せり
- 7 徒可ひこれをみておかむよ悲とりていへ

四二ウ

- 1 爾かへりぬ願春あ悲てゐやまふ一日一夜い
- 2 へのうち爾かくして須ゑ多りたちま
- 3 ち爾ほうふ支を徒くりてあ堂布乞者
- 4 な爾和させさせ多万ふへ支所と、へは法花
- 5 経を閑うせしめん登春るなりとこ多ふ
- 6 乞者おのれはさとれるところ那し堂、和
- 7 川閑爾。は若多ら爾を能ミ須し堂もち

四三才

- 1 て志支をこ悲ていのちをや志那布いか
- 2 てか経はかうせん登い布願主なほゆる
- 3 さ須乞者ミそか爾爾介の閑れなん登おも
- 4 悲多る爾願主可ねてう堂可ひて人越所
- 5 へてまもら春乞者のゆめ爾あ免那るめ
- 6 うし支多りてい者く我者これこのいへの
- 7 ある志のハ、なりこ能いへのうしのな閑爾あめ

四三ウ

- 1 なるめうしあり所れを和礼と志れ登われ
- 2 い介りしと支このものをぬし^すミよう
- 3 志支このゆゑ爾うし能身越う介て
- 4 所の徒みを徒久のふなりあ春わ可多
- 5 め爾大所^師うを登くへ支。なれはこよひ
- 6 念ころ爾徒介志ら須る那りまこと所ら
- 7 こと志らん登おもハ、のりと可ん堂う能う

四四才

- 1 ち爾我多め爾さを志け我まさ爾の
- 2 本りゐん登い布ゆめさ免て心のうち爾
- 3 おほ支爾あや志ふあ久るあした爾い那
- 4 布れ登もゆるさ須可うさ爾のほりて
- 5 い者久いや志支身者那盤堂おろか爾志て
- 6 もとよりさととりも那志仏爾もの申志経
- 7 を登久へ支事をも志ら春堂、願主

四四ウ

- 1 爾志多可ふ可ゆゑ爾このさ爾のはれるなり
- 2 いぬる夜ゆめ爾志めせることあり登て *
- 3 所のゆへ(ゑ)を閑多る檀越^{ケンオツ} お登ろ支きハ、て
- 4 堂ちて、徒可らさを志支徒いへ爾徒可ふ
- 5 あ免那るめうし支多りたう能うへ爾
- 6 能ほりてこのさ爾悲さま徒支て布志
- 7 ぬ願春おほ支爾な支てい者久まこと爾

四五才

- 1 我さら爾志らさり介りと志ころ久るしめ
- 2 徒可ひ堂てま徒り介るか和可心のおろか爾
- 3 閑那志久もあるか那介ふこの事を志り
- 4 ぬれは経能ちからのうれし久多う(ふ)と久
- 5 もいま春か那介ふよりのちはい多者り
- 6 や志那悲多てま徒りて徒か悲多て
- 7 ま徒ら志とな支閑那志布うしこの

四五ウ

- 1 事を支ゝてい支を那介支なむ堂を
- 2 いた春法事を者るほと爾このうし須那(は)
- 3 ち志ぬ支多りあ徒まれる所こそ者久の人
- 4 こゑをあ介てミ那、久所のこゑ堂能
- 5 うち爾は爾悲、久い爾しへよりのちいま
- 6 堂かゝることあら志登あや志ひてさら
- 7 爾所のは、の多め爾可さねてくときをお

四六才 (中十一—中十二天和国山村郷女)

- 1 こ那ふ万こと爾志りぬ願主の報恩を徒と
- 2 め堂流まことをい多せ流可ち可ら乞者
- 3 の神須を春せるこく、う、を徒める志るし
- 4 なり靈異記爾志るせり
- 5 大和国所布能可みのこほりやまむらの
- 6 さと爾一人のをん那あり姓名いま堂徒ハ
- 7 悲ら可なら春この〔女〕む春めありをとこ

四六ウ

- 1 志て布堂り能こをうめりむこはほか
- 2 の久爾の徒可さ爾めされぬめこをひ支る
- 3 て所の久爾、い里て二年ある爾めのは、ふ
- 4 る支さと爾ありてむ春免能ため爾あ志支
- 5 ゆめをミ多りおとろ支佐めてお所り
- 6 な介く春行せんとおもふ爾いへま徒し
- 7 久志てもものな志み徒可ら支たる支ぬを

四七オ

- 1 ぬ支てあらひ支よめて春行をおこ那
- 2 ふあし支ゆめ又閑さねてミゆハ、の心ま
- 3 須／＼お徒又き多るものをぬ支てあらひて
- 4 春行をせしむ、須めをとこ爾志堂可
- 5 悲て久にの多ち爾須む布多りのこいて、
- 6 には爾あ所布は、はやの内爾あり布多り
- 7 のこは、爾伊ふやうやのうへ爾な、の法師

四七ウ

- 1 ありて経をよむ登久いて、ミ多まへ登
- 2 いふ爾志多か悲てや能うへを支久爾まこ
- 3 登爾経をよむこゑありはちのあ徒ま
- 4 りて那るかこと志者、あや志みて爾は可
- 5 爾いてぬるに所のや春那者ち堂ふれぬ
- 6 な、の法師堂ちまち爾み衣春む春め
- 7 あや志悲て心のうちにおもふ天地我を

四八オ

- 1 た春介てきお所悲ころされ須なりぬる那
- 2 りとよろこ悲のちには、徒可ひをやりてあ
- 3 志支ゆめをミしさまをい悲春行をお
- 4 こ那悲しよ志を徒久む春めこ能よし
- 5 をき、てま春／＼三本うをゐやまふ春
- 6 な者ち志りぬ春行のちから爾三本うの
- 7 まもり多まふなり靈異記爾あり

四八ウ (中十三置染臣鯛女)

- 1 置染臣鯛女者な良能西のさうせのあま^さ
- 2 乃む須めなり道心布可久徒よ久志
- 3 て者^ハ志めよりを登こせ春徒ね爾那、越
- 4 川みて行基菩薩爾堂てま徒ること
- 5 一日も於こ堂ら春山爾伊梨て那、を
- 6 徒む爾おほ支那る久ち那者乃於ほ
- 7 支那る閑へるをのむをみる女閑那志ひ

四九才

- 1 てい者久こ乃かへる我爾ゆるせといふ爾
- 2 なを(ほ)のむ布可久か那し布爾堂へ須志て
- 3 久ち那は、閑久いふ爾なんゆる須那る登
- 4 支へて和礼なむちかめ登那らんを(ほ)
- 5 ゆれ(る)せとい布爾久ち那者堂か久か志ら
- 6 をも堂介てをんなの閑本をまは(は)
- 7 りて閑へる越者支いて、ゆる志徒女

四九ウ

- 1 あや志登思て日をとほ久な志ていま
- 2 七日ありてを^とこと堂は布れ爾いひて
- 3 さ梨ぬ所のゆふへ爾なりおもひいて、
- 4 おそろし介れはねやをとちあなを布
- 5 多支て身越閑堂めてうち爾こもれ
- 6 里久ちなは支多りてを、もちて閑へ
- 7 を堂、介ともいる事あ堂ハ須志てさり

五〇才

- 1 ぬあくるあしたいよ／＼おちて行基は
- 2 さち乃山てら爾る堂流所爾ゆ支てこ
- 3 のよしを堂須介よとい布爾こ堂へ^{こと}
- 4 てい者久なんちまのかる、事をえ志
- 5 堂、閑多久可いをう介よとい悲て須
- 6 那者ち三婦五閑い越う介徒女閑へる
- 7 道爾志らぬお支那あ悲ておほ支那

五〇ウ

- 1 那^らる閑爾をも多りをん那のい盤久那
- 2 爾人所そ乃閑爾は和礼爾ゆるせとい布おき那
- 3 乃い者久我ハ川乃久爾のむこのこほり爾
- 4 須む姓名をは志か／＼といふ年七八十爾那
- 5 梨ぬる爾悲とりの子も那志よを布る爾
- 6 堂よりな介れはな者の和多り爾ゆ支て
- 7 たま／＼こ乃閑爾を衣堂り人爾とらせん

五一才

- 1 登ち支れ流ことあはれはこと人爾はゆる志
- 2 か多志とい布をん那ころもをぬ支てい可
- 3 ふ爾ゆるさ須又もをぬ支て久は布
- 4 流爾うり徒をん那閑爾越もちててら
- 5 爾かへりて行基菩薩志て咒願せし
- 6 めて堂爾河爾者那徒行基はめてい
- 7 者久よい閑那堂布と支可那登をん

五一ウ

- 1 那いへ爾閑へりて所乃よ堂のミおも悲て
- 2 ゐ多る爾久ち那はやのうへよりお梨久多る
- 3 お本支爾お所りて登こを佐りての可
- 4 れ可くれぬとこのまへを支久爾をとりハ多
- 5 め久こゑありあ久るあし堂爾ミれは悲
- 6 登徒のおほ支那流閑爾ありて久ち那
- 7 者を徒多くときりお介り春那者ち

五二才

- 1 志りぬ閑爾乃和可おんをむ久い和可仏
- 2 かいをう希多るち可らなりとまことい徒
- 3 者りを志らん登て人を徒の久爾、やり
- 4 てお支那乃いへを多徒ね登ハ志む流爾こ
- 5 乃こ本りさと爾さら爾な支人なりと
- 6 い布又志りぬお支那者へ化乃人なり
- 7 介りと靈異記爾見衣多り

五二ウ (中十四檐磐島)

- 1 檐ならのいは般志まは聖武天王(皇)乃御よのならの右京
- 2 六条五坊乃人なり大安寺能西乃さと爾須む所
- 3 乃てらの春多ら久のせ爾卅貫を閑りう介
- 4 てこ志の川る可の徒爾ゆ支てものを可悲て
- 5 布ね爾徒見てかへる本と爾、和(は)閑爾やま悲をう
- 6 介て布ねをとゝめて馬をかりて悲とりい所
- 7 支ていへ爾かへるあふみの久爾堂可志まの

五三才

- 1 こほりをゆ支て三閑へり堂礼者をとこ三
- 2 人お悲て支多るされ流ほと一町許なり山志ろ*
- 3 能うち者志爾い多りてお悲徒支て所悲ゆ久
- 4 い者志まと悲てい者久い徒ちゆく人所とこ堂
- 5 へてい者く衣むら王乃宮乃ならのい者志
- 6 ま越め志爾ゆ久徒可ひなりといふ支、おと
- 7 ろきてい者久所の人者和礼なり那爾能ゆ

五三ウ

- 1 へ(ゑ)爾め須所徒可ひのおニ乃い者久ま徒なむち
- 2 かいへ爾ゆ^支介てと悲徒流爾あ支那悲志爾ゆ
- 3 支ていま堂可へら春とい悲徒礼ハ徒爾ゆ支
- 4 てもとめえ多る爾所こ爾して須那者ち
- 5 登らへん登志徒るをし和う乃徒可ひと
- 6 いふもの又支多り閑堂らひてこの人てら
- 7 乃せ爾をう介てあ支那悲て堂てま徒

五四才

- 1 流へし、者ら久ゆるせとい悲徒れはいへ爾
- 2 かへるまでゆるせ流なりと我悲ころなむち
- 3 越もとめ徒る爾うへ(ゑ)徒可れに多りもし志支
- 4 ありやと、ふい者志ま可い盤久和れ道爾ても
- 5 須可ん登てほしい悲須こ志をもち多り
- 6 登い悲てこれをあ多へて久はせ徒鬼なん
- 7 ち可やむハ和可介なりち可久はよら志お所る

五四ウ

- 1 こと那かれとてとも爾いへ爾い多りぬ志支を
- 2 所那へておほ支爾ある志春鬼乃い者く和
- 3 れはう志の志、をね可悲久ふ所れをもとめ
- 4 て久はせよとよのな可爾うしをとる鬼ハ
- 5 和礼なりとい布。^{いはし方いかはく}我かいへ爾ま堂ら那るうし
- 6 ふ多徒あ梨これらをあ堂へん我をゆるせ
- 7 登いふお爾のい者久我おは具那ちち可

五五才

- 1 志支をえ徒そのを(お)んをむ久ゆへ志堂、
- 2 しもしなむちをゆる志てハ我おも支
- 3 徒みをお悲て久ろ閑ねの徒ゑをもち
- 4 ても、堂悲う多るへ志もしなむちと
- 5 お那し登し那流人やあると、ふい盤志
- 6 まこ堂布和礼さら爾志ら春といふ悲と
- 7 りの鬼多は閑りてなむちはな爾のとし所

五五ウ

- 1 と、へは徒ちの衣とらの登しとこ堂ふ鬼能
- 2 い者久和れ所乃と志の人乃あるところを志れ
- 3 りなんち可はりにかれをめさん堂、志由
- 4 るし徒るう志は悲と徒なん久悲徒る
- 5 又わ可う堂れむ徒みを(ま)ぬ可れ志めんか
- 6 多めに和れらみ多りなをよは悲てこむか
- 7 う般若経百巻をよましめ多てま徒れ

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について(春日)

五六才

- 1 我らをは、一のをはかうき万ろといふ二の
- 2 をは中知まろ登い布三のをは徒ちまろ
- 3 といふ登てよ那閑爾いてさきりぬあ久るあ志
- 4 多爾見れはう志悲と徒志爾多り須那者ち
- 5 大安寺乃南塔院爾ゆ支てきみ二衣うをさ
- 6 う志てことのよしを閑堂らひて所の経を
- 7 よま志む二日よみて三日能あ可徒支爾徒

五六ウ

- 1 閑悲の鬼支多りてい者久大所うのちから爾
- 2 よりても、徒ゑの徒みをまの可れぬ又徒
- 3 ね乃志支より本か爾志支をましておほ
- 4 具衣多りよろこ悲多ふとふることふ閑志いま
- 5 よりのち爾はせち日こと爾久と久をおこ那
- 6 悲志支を久せよとい悲て多ちまち爾
- 7 き衣うせぬこ乃人とし九十よ爾して

五七才 (中十四—中十五奈良京僧)

- 1 いのちを者れり堂い多う爾はイシクエン隠 玄とい
- 2 悲し人は若のち可ら爾よりて久わうの
- 3 め志をまの閑れ多り日本爾はい者志まあ
- 4 りてゝらのせ爾をう希て川か悲のお爾のと
- 5 らふるを万ぬ閑れ多り靈異記に見衣多り
- 6 ならの京爾悲とりの僧あり徒ね爾者うとう
- 7 経を春しよ爾徒支てせ爾を堂久者へて

五七ウ

- 1 めのこをや志那布む須めを登こ志て
- 2 をとこのいへ爾春む帝支あはい天王(皇)乃
- 3 御よ爾む須めのをとこむ徒の久爾能この
- 4 所う爾なりて志う登の所う乃せ爾廿貴
- 5 を閑梨て徒可ひて爾むせる久爾、久多り
- 6 奴一年よをへて閑札累せ爾いちへ志ぬ和徒可
- 7 爾もとの閑須を可へ志ていま堂り乃せ爾

五八才

- 1 を徒久のは春登志徒支をへてな本者多りこ
- 2 布むこ悲所閑爾多よりをハかりて志うとをこ
- 3 ろ志てむと思て閑多らひてい者くこと久爾、
- 4 ゆ支てこ乃せ爾を可へさむもろとも爾ゆけ
- 5 といへは所う布ね爾乃りてもろとも爾ゆ久むこ
- 6 ふ那人爾心をあ者せて所う乃よ徒の衣多を志
- 7 はりてうみ能な可爾おとしいれ徒閑へりてい徒

五八ウ

- 1 者りてめ爾か多りていは久ち、の大登くをなむ
- 2 ちをみむ登て我を(と)とも爾和堂りき徒るを爾
- 3 和(は)閑爾あら支那ミ爾あ悲て布ねうミ爾志徒ミ
- 4 ておほ、れ志ぬ須久悲とらんと志徒れとも多へ
- 5 春なりぬ我もほとゝ志久て和川閑爾い支た
- 6 流なりと伊ふむ春めこれを支、ておは支爾可那志
- 7 き閑那布多、悲おやのみか本をみ春那り

五九才

- 1 ぬることを我い可てかうみの所こ爾いりてむ
- 2 なし支閑者ねを多爾衣んとな支可那しふ
- 3 僧うみ乃所こ爾ありなから心をい多して方
- 4 広経を春ゝる爾うミの水さかりの支てをる
- 5 登ころ爾支多ら春二日夜をへて人布ね爾
- 6 のりてこのところを和多り須久な者のハ志を
- 7 うかひ多、よふ、那人これをミてひ支あ久る

五九ウ

- 1 爾志者られ多る僧いて支多れり閑ほのいろ徒ね
- 2 乃こと志ふ那人おほ支爾あや志ひてな爾人
- 3 所とゝへは我は所れなりぬ春人爾あ悲て志はら
- 4 れておとしいれられ多るなりとこ多ふ又とふ
- 5 い閑那る須徒ありて可うミ爾志徒みて志那
- 6 さり徒る所とゝへはこ多ふ我徒ねに方広大乘を
- 7 須志多も徒所のち可ら那るへしといふ多、志

六〇才

- 1 むこの姓名をは人爾閑多ら春もとのさと爾
- 2 可へらんことをね閑ふ、な人これをお久るむこ
- 3 おちいり爾し所う能多めにとていき、か那る所
- 4 う久をまう介て、徒からさ、希て所う爾
- 5 わ可徒ほと爾志うとの所うい多りておもてを
- 6 徒、みてさみのなか爾ましりてゐて所の
- 7 せ行をう久むこの所う閑本をミ徒介てお

六〇ウ (中十五—中十六吉野山寺僧)

- 1 もてあを久あ可久なりておとろ支おちて
- 2 かくれぬ所うゑみをふ久みてうらみ春志の
- 3 悲て徒悲爾あらはさ春うミの水爾おほ、れ
- 4 春と久のいは(を)爾のまれ須していのちを徒悲爾
- 5 ま堂支事は大所う経のあらはなるちから那り
- 6 登志りぬ靈異記爾ミ衣堂梨
- 7 よし乃山爾悲と徒のやまてらあり海部乃ミ

六一オ

- 1 ねといふすいキアに俗帝姫阿部天皇乃御よ爾一人の所うあ
- 2 りて閑乃山てら爾須むとし悲さし久おこ那
- 3 悲て徒とめてミ徒可れちからおとろへてお支
- 4 ふ須こと多へ春なりぬて志の所うまう春大師み
- 5 徒可礼堂ま悲てやま悲春て爾おも久那
- 6 りたまひ爾多り身を多須介て道を
- 7 こ那布こと仏乃と支多万ふ登ころなり

六一ウ

- 1 やま悲能所う爾はゆる志堂まふなりうる
- 2 を閑ふは徒み可ろ支那り心み爾那を(は)いを、
- 3 まるれ登いふねむころ爾須、無礼者な爾
- 4 閑はといふて志きの久爾のほとりにとうしをや流
- 5 とうしゆ支てあさら閑那るなよしや徒
- 6 を可悲てち悲さ支ひ徒爾いれて閑へり
- 7 久るほと爾我師を忘れる所久三人道爾

六二オ

- 1 あ悲て志のもとへもてゆ久ものなめり登
- 2 ミてなむちのも多るはな爾所とへは
- 3 心爾もあら春志て法花経なりとこた
- 4 へ徒悲徒よりいを志流多りおちいを可
- 5 あらは爾久き閑梨介は所久和ら悲ゝて
- 6 い川者りを多、さむ登おもひていちの
- 7 なかを須久る本と爾和らはをとめて

六二ウ

- 1 おほくの人のなかに志てなむち可も堂
- 2 流ものはこれをなり伊閑て経とは
- 3 いふ登、布爾和らはなを(ほ)これは経なりい
- 4 本(を)爾はあら春とあら可ふ所久はみ那これ
- 5 い本(を)なり経爾はあら春登せて志悲て
- 6 あ介てミむと春れはわらはか、流こと
- 7 え須して心爾ゝうちニねむをおこ須我師

六三オ

- 1 乃と志ころよみ多てま徒り堂まふ法
- 2 花一所う和礼を堂須介多まへ志爾ハちを
- 3 ミせ多まふ那登ねむ須所久ひ徒をあ介
- 4 てミ流爾法花経八巻あり所久共これをみて
- 5 お所りあや志閑りてさりぬ一人乃所久那
- 6 を(ほ)あや志とおもひておくれと和らは爾所
- 7 ひて、ら爾い多りぬ閑久れてミれはわらは

六三ウ

- 1 志爾む閑悲て徒布さ爾こ乃よしを
- 2 能布師これを支、てあや志悲よろこ悲て
- 3 久は須那りぬ所具五堂いを地爾な介て
- 4 せしを、かみてまうさ久まことのいほ(を)
- 5 なり介れ登も悲しり能登久爾よりて
- 6 経爾なれり^ナ和礼久ちさ支(見)爾志て因果
- 7 をしら春して悲志りの徒可ひを那や

六四オ

- 1 まし和^徒多らは志徒ね可は久は徒み
- 2 をゆる志堂まへ和可大師登志多て
- 3 ま徒らんとい悲て大檀越^{だん}登なりてなか
- 4 久ぬやま悲久やう須まさ爾志るへし
- 5 乃りの堂め爾は堂須久れはと久もへ
- 6 ん志て久春りとなりいをも化志て経
- 7 と那る靈異記爾ミえ堂り

六四ウ (中十七美作国探鉄山人)

- 1 みまさ可乃久爾英多郡爾おほや希久
- 2 ろ閑ねを登る山あり帝姫^{テイキ}阿倍^{ノヒコ}天皇御
- 3 よ爾久爾乃徒可さ堂み百人をめ志て閑
- 4 乃山爾乃ほりてあ那爾いれて久ろ可ねを
- 5 本ら志む流爾あ那乃徒ち久徒れ布多可り
- 6 いれる人おとろ支お所りてあ那よりき本
- 7 悲い川る爾九十九人者和徒可爾いて、一

六五才

- 1 人お所具い徒るほと爾あ那乃久ち久徒れ
- 2 おちぬく爾の徒可さな介支あ者れ悲めこ
- 3 閑那志悲て本と介を可支終をう徒志
- 4 て四十九日乃法事をおこ那悲をはりぬこ
- 5 乃悲と／＼りあ那のうち爾ゐておもふ我む
- 6 閑志法花終閑支堂てま徒らんといふ
- 7 願をおこせり伊ま堂う徒し多て万

六五ウ

- 1 徒ら春和可いのちを多須介多まへ羅ハ
- 2 閑那ら春登久閑支たてま徒らんと
- 3 ねむ須る爾あ那能ひまおよ悲さしい
- 4 流許登本りて日乃ひ閑りわ徒可爾支
- 5 堂る一人能さ見ありて悲まよりいり
- 6 支多りて久悲ものを所那へてあ堂布
- 7 閑堂りてい者久那むち可めこの和

六六才

- 1 れ爾あ堂へ徒るものなりなんち可う
- 2 れへ和布れはことさら爾支多り徒る
- 3 なり登い悲てま堂ひまよりいてぬさ
- 4 梨て乃地悲さしから春志てを流
- 5 い多、支爾あ堂りてあな日ら介とは
- 6 りて所らあらは爾ミゆ日ろさ三尺
- 7 よ堂かさ五尺許なりと支爾むら

六六ウ

- 1 人卅よ人可徒らを久り爾山爾いりて
- 2 こ乃あ那の本と「り」をゆ支春久所こ那る人
- 3 悲との閑介をミてよは悲さ介ひて我
- 4 を堂須介よとい布本の可爾支久爾か
- 5 乃こゑのことし須那者ち支、あや志悲
- 6 て閑徒ら爾い志を徒介て所こ爾い
- 7 れてこゝろみる爾所この人悲支うこ

六七オ

- 1 可須人なり希りと志りてか徒らを
- 2 む春悲てこ爾徒久りて可徒らを那
- 3 ひて徒な爾徒介てお登志いれ徒
- 4 所この人乃りる爾介れはうへの人悲
- 5 支あ介徒おやのいへ爾ゐてお久るい〔へ〕の
- 6 人これをミて可那志悲よろこふこと
- 7 か支りな志久爾の徒可さおとろ支とふ

六七ウ

- 1 徒布さ爾^{かむの}久多りのことをまう春、那
- 2 ハ地おほ支に堂う〔ふ〕登悲閑那し悲て
- 3 久爾乃うち爾ち志支をと那へて
- 4 我より者志めてちからを久はへて
- 5 所の法花経をか、せておほ支爾久
- 6 やう春せしむい支閑堂〔し〕久志てい
- 7 支多ることこれ法花経の願乃ちか

六八オ (中十七―中十八大安寺榮好)

- 1 らなり靈異記爾み衣堂梨
- 2 む閑志大安寺爾ゑいかうとい布所うあ
- 3 り身ま徒志う ておこ那悲徒とむ
- 4 い、ろよりい徒ること那志おい多る者、
- 5 をてらのほ閑爾須ゑたり一人乃和
- 6 らはをむろのうち爾徒かふ七大寺は
- 7 い爾志へむろ爾閑まこ志支をおか春

六八ウ

- 1 まところ爾い悲をかし支て無那久る
- 2 万爾徒ミてあし堂こと爾所う者う能
- 3 まへよりやりて悲とりの所う所うこと爾
- 4 い悲四升をう希志むゑうかうこれ〔を〕
- 5 う介てよ徒爾和閑ちて悲と徒をは
- 6 母爾堂てま徒る悲と徒を支多る乞者
- 7 爾あ堂布悲と徒をはみ徒から久ふ

六九オ

- 1 悲と徒をは和らは爾あて堂りま徒
- 2 者、爾お久りてまい(ゐ)り、徒るよしを支
- 3 へて乃地爾み徒可ら久ふ師久悲て乃
- 4 ち爾和らは久ふあまたのとしをへて
- 5 こ乃ことあやま堂春房の閑堂者ら
- 6 にち可久ならひてこさうとい布所う
- 7 須む又身ま徒し久志て川とめあり

六九ウ

- 1 ゑ可う登志た志支登もと志て登
- 2 しをへてこ乃ことをみ支久爾人あ
- 3 志多可へ越へ堂て、き久爾ゑ可う
- 4 か登うし介ふのい悲をう希お支て
- 5 可久しお支て那久こゑありこさ
- 6 うあや志みて悲所閑爾和らはをよ
- 7 悲てな爾こと爾よりて那久所と、へは

七〇オ

- 1 こ堂へてい者久介さ師乃所う徒、か
- 2 那久志てに和(は)閑爾をはり多まへり
- 3 ま徒おのれ悲とりして閑さま爾
- 4 てもい閑きにてをさめ堂てま徒らん
- 5 登春らん徒支爾は志のい悲爾か、り堂
- 6 まへり、徒る志の者、い閑爾てい支多
- 7 万へらん登須らん登い悲て那久こさう

※

七〇ウ

- 1 閑那志悲おもふこと可支りな志おの閑ち、ハ
- 2 、爾和閑れ堂らんことし須那者ちを
- 3 志へてい者久なむちさら爾おもふへ
- 4 から春をさめん事は和れとなむちと
- 5 志てこよ悲もてか久志てむ者、を
- 6 は我あ悲可はりてい悲をわ介て
- 7 や志那者む(なむ)ち春支ぬる爾可はら春

七一オ

- 1 い悲も又お那し須へていまは和れ
- 2 をたのまむことの志のこと久おもへ
- 3 所も／＼このよしをは母爾志ら志む那
- 4 としおいおとろへ堂れは支可は閑那ら
- 5 春まとひ志爾堂まひなむと支多可ハ
- 6 さるさ支爾登久介ふのい悲をお久れ
- 7 といふ和らはこ乃ことを支て閑那志

七一ウ

- 1 悲のうち爾よろこ悲をな春なむ堂
のこひはして
- 2 をこほし徒のこ悲本志て徒れなき
こほし
- 3 さまを徒久りてれいのこと久い悲をもてい
- 4 久那むたのおちぬへ介れはい布事も那
- 5 具志てさしお支て登久可へりぬハ、
- 6 希ふあし堂爾心者志り志介りこ乃よ
- 7 こさう和らとはと爾那ひてゑうかうを

七二オ

- 1 布可支山爾お支徒てらのうち爾志ら
- 2 志め須して志はら久本可へさり爾
- 3 堂るとい者志むこさうおの可い悲を
- 4 和希てもとのこと久爾ハ、爾お久り和ら
- 5 は爾た万ふは、と支／＼わらは爾とふなと
- 6 か悲さ(し)うはいませぬとまうせ。トイヘは和らは
- 7 乃い者久徒ね爾いて多ち多まふを御

七二ウ

- 1 おこ那悲、ま那久悲とり(ら)支多りあ悲徒、
- 2 登まら流、なり堂、た悲ら可爾おは
- 3 須と支、よろこ悲てい所可れるなりこよ
- 4 悲もこよ悲も万ゐられなむ登い悲徒、
こよ
- 5 徒支悲をおくるま堂のとしのはる
- 6 ある人支多りてこさう爾久やうをた
- 7 てま徒るせは支者う爾まらうとあ

七三オ

- 1 徒まりてわらはま徒このことをい所支て
- 2 い悲を和久ること志はらくおこ堂れり
- 3 まらうと志悲て久須りの佐介を春
- 4 めてこさうさけの介ありてねふり
- 5 いれりおとろ支てみ流爾日の可け閑
- 6 堂布介り須那ハチ和らは爾めを久はせ
- 7 てれいのい悲をやり徒盤、か多らひて

七三ウ

- 1 いは久おいぬる身ケルの久ちをしかり ことは
- 2 礼いのと支須こ志春支ぬれは介さ那
- 3 む心地あし閑り徒るといふ爾和らはか那
- 4 志悲のこゝろむね爾あまりて爾わ(は)か爾布
- 5 しまる悲な具母あや志悲てとふ和ら
- 6 はか久し者徒ること阿堂は春志て那
- 7 久ノゝいは久まことは御こはいま、てい万

七四オ

- 1 春かりとやおほ春こ所のその徒支爾か
- 2 くれ多まひ爾支といふ、昔、いか爾ノといふま、
- 3 爾多衣をはりぬ和らはいよノ閑なしかり
- 4 てこしらへおとろ可せともい可春久いお
- 5 もへともか悲も那しことのよしをこさ
- 6 う爾万う春こさう閑那志、ひて那久ことか
- 7 きりなし和れも志まこと能こ那らま志

七四ウ

- 1 閑は可、流ことをあらせましやは我も
- 2 志ほと介のせい〔し〕多万へるさけを能まさら
- 3 ま志可は閑堂と支もお〔こ〕多らましやは
- 4 とい悲徒、な支那介久ことねむころ爾布
- 5 閑志こよ悲登う本う能人ノ七人を閑
- 6 堂ら悲てもとの和らは志堂志久所悲て
- 7 このをんなをいは布ちのてらの山乃那

七五才

- 1 閑爾は布り徒あ久るあし堂爾八人乃僧
- 2 堂う爾伊梨て志は^志や須むこさう閑
- 3 たら悲てい者久我^ゑうかう爾閑者りて所
- 4 乃者ハをや志那悲徒所の心さしいま堂悲さ
- 5 志からさ流爾そ乃いのち春て〔に〕多衣爾堂り
- 6 な介支ても可悲那志いまは乃ちのよを
- 7 みち悲可んとおもふに多う能うち爾いま春

七五ウ

- 1 仏乃みまへ爾経いま須みれは法花経な
- 2 り和れハ人志て八巻乃経を衣多り縁あり
- 3 登い布へ志七日七日乃あ悲堂はこのてら
- 4 に支多りて一日爾一鉢をまう介て一人
- 5 爾一卷をかうせしむ登志ことの支日に
- 6 もけふの八人地可らをあはせて所の日を
- 7 はて爾^{おき}て四日乃かうをおこ那悲て八巻

七六才 (下序)

- 1 をと支て奈可く能りのともしひをかゝ介あ
- 2 るいはかいりち〔を〕まもりて鉢のあふらを可た
- 3 ふけ春あるいは真言をつ多へてまた久可
- 4 めのみ徒をうつしあるいは大所^せうを春
- 5 ^しゑてあまねくころものたまを可くあるいは
禪定^{ぜんぢやう}せ多支^{んたう}をこのみてよのいそ支を春てある *
- 7 いはせ介む爾いて、人能こゝろをすゝむみ那

七六ウ

- 1 これ仏介う能あま多の可とよりわかれいりて
- 2 おなしく本多い能ひとつ所二い多りあ者むと
- 3 春るなり又可いをや布れる所うをもわれお
- 4 なしくゐやまふ経爾能多まはく多とひ
- 5 淨戒をやふれりとも輪王爾も春久れ多り
- 6 たとひあく道^{よく本たいをすすむせんふ久の花はしはみた}におつれと毛よる徒の者那爾
- 7 まさりせむ多む可う能もえうせ多れと毛も

七七才

- 1 ろく能ころもに、ほへる可とし千能うし能
- 2 な可にひとつしぬとて能こりのうしを春徒へ
- 3 から春あま多のかい能な可爾ひとつ可介ぬとて
- 4 か多へ能可いをかるむへから春閑うを徒、め
- 5 りしふくろはかう、せぬれともな本可う
- 6 はしかいをうけて志みは可いやふれ多
- 7 れと毛な本多う(ふ)とし登いへり万堂かいをう

七七ウ

- 1 けぬ沙門をもわれふかくうやまふ経爾のた万は
- 2 くりう能こはち日さくと毛可ろむへ可ら春く
- 3 もをま支あめを久多春さみはいと。支那くと毛
- 4 あ那徒るへから春道をえ人をわ多春といへ
- 5 り春へてこれをいへは可多ち沙門ニ、ぬれ盤
- 6 可那ら春賢劫能もろく、能本と介をみたて
- 7 まつりたの見を大非経能もむ爾け多りみ爾

七八才

- 1 介さ支つれ盤み那女らい能まこと(ミ)と那りぬ
- 2 いましめを大し布経能な可爾能こせり本と
- 3 けいまして能多まはくもし可れをう
- 4 つは春那者ちわれをう徒なりもし可れを
- 5 能るは春那盤ちわれを能るなりとの多まへ
- 6 りくさくはうるはしうかされるいろあれと
- 7 もかりの徒はさのとほくとふ爾はし可春

七八ウ

- 1 白衣はとみ多ふと支ち可らあれと毛所う能み
- 2 ち能まことに春くれ多る爾はおよは春こ
- 3 の遊る爾徒と免あるをもつとめ那きをも
- 4 能りのう徒は物そとたの見さとりふ可支を
- 5 もさとりあさ支をもほと介のつ可ひとおもへ
- 6 もし盤まことにまれもし者いつはり爾万れ
- 7 そのと可をあらは散、れ盤あるは多う(ふ)とき

七九才

- 1 爾もあれいやしき支爾もあれそのとくを
- 2 ほむへしお本よそ本ふ能こ(へ)ろをもちて賢
- 3 さう能みちをは可り可たしかの希う本む
或本指覽比丘云々
- 4 比丘はあし支人なりみるもの多れ可過去
- 5 能女らいとしらむ経本さちはく多れる可た
- 6 ち那りう徒ものみらい能介う春とおもは
- 7 散り支まことのくらひ(ぬ)可りのあとしり可多し

七九ウ

- 1 ^志。かしみ那うやまはむ爾盤うちのとく本か
- 2 能可多ちさため可多し、か志春へて本めむ爾
- 3 盤むかし能。^{維那}おろ可爾してほふ(か)の所うを
- 4 のれりしは九千一こむし能可たち(の)徒、見を
- 5 うけ年ふ(少)の多はふれ爾おい多る所うをわ
- 6 らひし盤一五百生いぬのみのくるしひをう
- 7 介多りこ、をもちてむ可し能さ可しきひと

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について(春日)

八〇才

- 1 者み那本と介の御弟子を多う(ふ)とひ支影賢王
- 2 能干能所うをやしなひし太子うけて
- 3 あひつ多へ阿育王能もろく能所うを、可み
イッ
- 4 志大臣いさひ(め)し可と毛やまさり支須達長
セイセン
- 5 者盤てらを徒くりて春ましめ耆婆医王
キハ イワウ
- 6 盤ゆをわ可してあむしきい盤むや大さ
- 7 う能可り人爾ころされしもひ介可見を所れ

八〇ウ

- 1 るをみてよくし能ひらせちの徒見ひとを九
- 2 らひしも能りのころをもまつへる爾おとろ
徒
- 3 きて春那盤ち散り爾支お爾介たものたにう
- 4 やまひ介りひとのこ、ろ爾あ那徒るはおろか那
- 5 るなり春へてよのとしひとつ多へく爾の
- 6 多可らと那つけ年能うちの多う(ふ)と支わさを
- 7 おこ那日ゆく春ゑ能よ支道をしふる

八一オ

- 1 ことみ那沙門能とく爾あらぬはなし我ハ
- 2 ま多、那こゝろをあはせて所う能多う(ふ)
- 3 と支可^ととをあらは春 正月 修正月
- 4 仏と支たまはく一日もいもひを多もては
- 5 六万さい可てを盈徒な、あゆみもてら爾
- 6 む可へは百千万こふの徒見をけ春と能多
- 7 まへり又経いはく正月五月九月爾は多い尺

八一ウ

- 1 なむえふ多い爾む可ひて春さう徒くる所能
- 2 善惡をしる春このつ支爾はゆあ見いも
- 3 ひ志てもろく能よ支ことをおこ那へといへり
- 4 これ爾よりてなるへしあめのし多のひ登
- 5 正月爾はみ那つ、しむおほや介爾はな、つ能
- 6 道能くにく耳ほうしあま爾ふせをたも(ま)ひ
- 7 て徒とめい能らしめわ多くし爾はもろく能

八二オ

- 1 山や万能寺てらにをとこをむなとう明を可、
- 2 介てあつまりおこ那布またい能ちをのふる
- 3 ことくき、て可ゆをもちて所う爾くやう
- 4 春るひともあり四分律^{リツ}爾よつ能りやくありと
- 5 と支所う支律爾はとほ(を)のりやくありとあ可せ
- 6 り介のな可爾いはく人天能中爾い能ちの多能し
- 7 ひを盈むとおもは、いま、さ爾可ゆをもちて

八二ウ

- 1 もろく能所う爾本とこ春へしといへれ盤なりみ
- 2 能うへのことをいのりとし能うちの徒、しみを
- 3 な春爾てらとしておこ那者ぬなく人として
- 4 きよまはらぬ、な介^サれ盤とし能はしめ爾は
- 5 く爾のうちにせむ^サこむ^根あまねくみち多りまさ
- 6 爾しるへし多いさく能玉のか、み爾てらしえむ
- 7 ま王宮能こ可ねのふ多爾しる春らん

1 保安元年六月七日書う徒し 3 願以此功德 普及於一切 我等与衆生

2 お(を)はりぬ 4 皆共成仏道

以上、関戸本東大寺切の本文を写真をもとにして、補正したが、これによって、記述内容にも多少の相違が生ずるので、左にそれを連記する。なほ本文中の()は、旧翻刻文の辞句、ページ数は、「説話の語文古代説話文の研究」における当該記述個所である。

「白木(百木)」(一五ウ6)は、ぬりでの木・ぬるでの木(白膠木)のことで、白木が正しく、ビヤクモクと音読したものであらう(一二八ページ)。「今日せずはいつかわが(ハ)せむとしはへぬべし」(二五オ1)は、下十八灌仏終末部の歌謡である(六四ページ)。「はこをさ(ち)しいだし」(四〇オ1)は、観智院本ツクリイダシ、前田本「令造管」であるが、本文「指し出だし」となる(七三ページ)。「つかひこれをみておがむ(おらび)」(四二オ7)は、前田本「使見之礼」であり、「おがむ」はヲ√オの例となる(一五八ページ)。「おそろゝこと(おそろこと)なかれ」(五四ウ1)は、「おそろ」の上二段活用連体形の例となること既述の通り(註(一〇四ページ))。「いかで(いかに)して」(七〇オ6)は、観智院本イカニシテで、東大寺切の和文的改変の例となる(一一二ページ)。

なほ「はうとうぶの」(一ウ4)は、「方等部の」でふのを衍とする必要なく、「くちひるみ」(三九オ5)は、「みにくく」を補ふ必要なく、「ひるみ(瘠痺)」でよいこと馬淵博士の指摘されるところであった。謝意を表して筆を擱く。

註 拙考「三宝絵詞東大寺切追考―「おそろ」の活用など―」(大坪併治教授退官記念国語史論集二七〇ページ以下)



○^{以善}文帝乃涕泣而去

五、日本經濟發展之特點

終
け
の
一
人
の
時

Ernst von Schuch

あそび多しなりけりあはれ

あまのり

東のふしはあまのふし

[illegible]